



各位



2021年5月11日

会社名 株式会社TOKAIホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 鶴田 勝彦
 (コード番号 3167 東証第1部)
 問合せ先 常務執行役員 IR室担当 谷口 芳浩
 (TEL. 03-5404-2891)

2021年3月期 決算について

～コロナの影響を受けながらも4期連続増収・3期連続最高益更新、顧客基盤も拡大～

当社は、本日、2021年3月期(2020年4月1日～2021年3月31日)の決算を発表しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 顧客件数が2期連続で約10万件増加、収益基盤のさらなる拡充

当社は、当期を最終年度とする第3次中期経営計画「Innovation Plan 2020 “JUMP”」において、従来から事業テーマとする継続取引顧客の増加、TLC(トータルライフコンシェルジュ)構想*1に基づく複数取引化の推進、営業エリアの拡大等に加え、M&A及びアライアンス投資など、積極的な収益基盤拡充戦略に取り組んでまいりました。

当期において、当社グループは、政府や行政から事業継続を要請されるお客様の生活に欠かすことができないインフラサービス提供事業者として、新型コロナウイルス感染症対策を徹底することにより、お客様並びに従業員の安全確保を図り、サービス提供継続の責務を果たしてまいりました。

営業活動についても、WEBを活用した新たな情報発信や商談会、テレマーケティングなど、非対面営業を積極的に行ったことなどにより、当期末における**継続取引顧客件数は3,099千件と、期首の3,003千件に対し95千件増加**しました。

前期の101千件増加(M&Aによる増加65千件を含む)に続き、2期連続で約10万件的継続取引顧客件数増加となりました。

ガス(LP・都市ガス)顧客が31,206件の純増、CATV顧客が43,520件の純増、光コラボ顧客が12,939件の純増と、収益基盤のさらなる拡充を進捗させました。

2. 4期連続の増収・3期連続で最高益を更新、かつ、計画超えの決算着地

当期の業績について、LPガス及び都市ガスの仕入価格下落に伴うガス販売価格の低下(利益影響なし)や、コロナの影響があったものの、家庭用LPガス販売量の増加、情報通信法人向けストックビジネスの拡大、CATV及びアクア(宅配水)の顧客件数増加等による増収により、**売上高が1,967億円(前期比8億円、0.4%増)と、4期連続の増収**となりました。

利益面についても、婚礼・宴会など一部の事業がコロナの影響を受けましたが、LPガス、CATV、アクア等の顧客件数増加に伴う月次課金件数の増加等による増益及び法人向け情報通信事業の増益などで補い、**営業利益が152億円(同10億円、7.0%増)と、3期連続の増益を果たし、各利益項目が過去最高を更新**しました。

また、期初の業績予想に対しても、**全ての利益項目が予想値を上回る着地**となりました。

(単位：百万円)

	当期実績 (2020.4.1～2021.3.31)	前期実績 (2019.4.1～2020.3.31)	業績予想 (2020.5.8公表)	前期比	業績予想比
売上高	196,726	195,952	205,300	+774	△8,573
営業利益	15,226	14,224	15,000	+1,001	+226
経常利益	15,312	14,479	14,870	+833	+442
当期純利益	8,815	8,241	8,460	+574	+355
1株当たり利益	67.32円	62.93円	64.60円	+4.39円	+2.72円

3. セグメント別ではエネルギー、CATV、情報通信の営業利益が伸長して増益を牽引

主力事業のエネルギー、CATV及びアクアの各セグメントにおいて、顧客件数増加に伴う月次課金件数増加による増益を計上しました。また、情報通信サービスセグメントでも、法人向け情報通信事業がAWSをはじめとしたクラウドサービスの拡大などにより増益となりました。

4. 営業キャッシュフローが拡大、成長戦略のM&A投資を積極展開

営業キャッシュフローは、営業利益の増加に加え、運転資本の増加などにより322億円の収入（前期比97億円の収入増）となりました。

投資キャッシュフローは、グループの成長戦略として積極展開しているM&Aによる株式の取得及び事業の譲受に係る支出などにより171億円の支出（同49億円の支出増）となりました。

この結果、フリーキャッシュフローは152億円の収入（同48億円の収入増）となりました。

また、財務体質のさらなる改善も進捗しました。

5. 3期連続で最高益を更新、株主還元を拡充

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。

当期の業績について、コロナの影響を受けながらも4期連続の増収、3期連続で全ての利益項目が過去最高を更新し、期初の予想値を上回る決算となりました。

当期の1株当たり配当金は、**2021年3月11日付で公表したとおり、期末配当を期初予想の14円から2円増配して16円**とし、年間配当金合計30円を予定しています。

	2021年3月期 (当期)	2020年3月期 (前期)
第2四半期末	14.00円	14.00円
期末	16.00円	14.00円
年間配当金合計	30.00円	28.00円
配当金総額(合計)	3,940百万円	3,678百万円
配当性向(連結)	44.6%	44.5%
純資産配当率(連結)	5.6%	5.8%

詳細につきましては、別添の「2021年3月期決算について」資料をご参照ください。

また、2021年3月期決算短信は、以下のURLをご参照ください。

<https://www.tokaiholdings.co.jp/ir/library/earnings.html>

- *1 TLC 構想；当社グループが提供する様々なサービスにより、お客様の快適な生活を総合的、且つきめ細やかにサポートし、お客様の満足度の向上を目指す当社グループのビジョン。

以 上

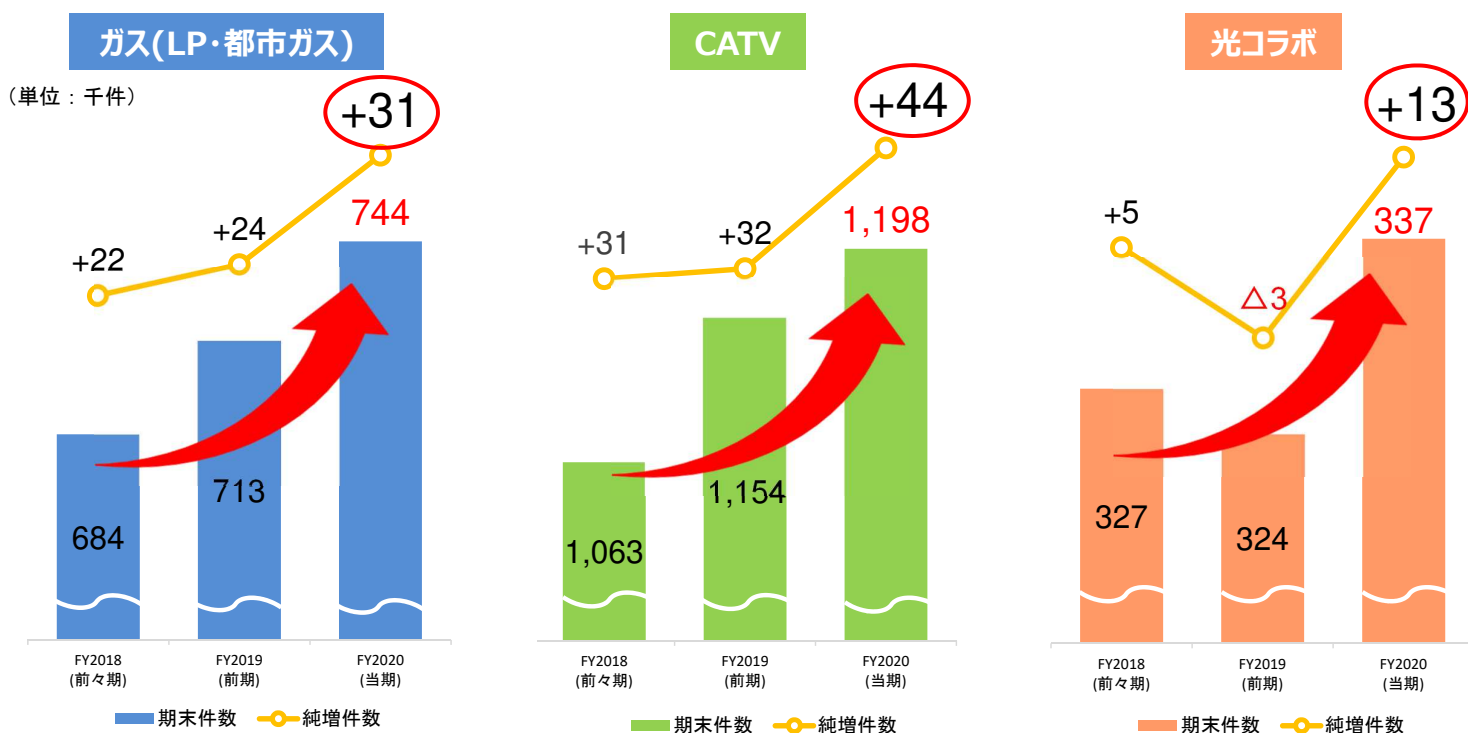
2021年3月期決算について

株式会社TOKAIホールディングス
(証券コード:3167)

2021年5月11日

主力事業が堅調に顧客基盤を拡大

- ◎ 当期末の継続取引顧客件数は3,099千件と、期首の3,003千件から95千件増加
- ◎ 主力のガス事業・CATV事業、光コラボが収益基盤のさらなる拡充を進捗



※千件未満四捨五入
※純増件数はM&Aによる顧客の増加を除く。

主力事業純増件数のポイント

- ◎ ガス事業は純増件数が前期比3割増で伸長、新規エリアでもシェア拡大
- ◎ CATV事業は通信サービスが前期の1.6倍に増加して大幅増
- ◎ 情報通信事業は純減傾向に歯止め、6期ぶりに純増
- ◎ アクア事業は営業活動自粛の影響を受けたものの純増を達成

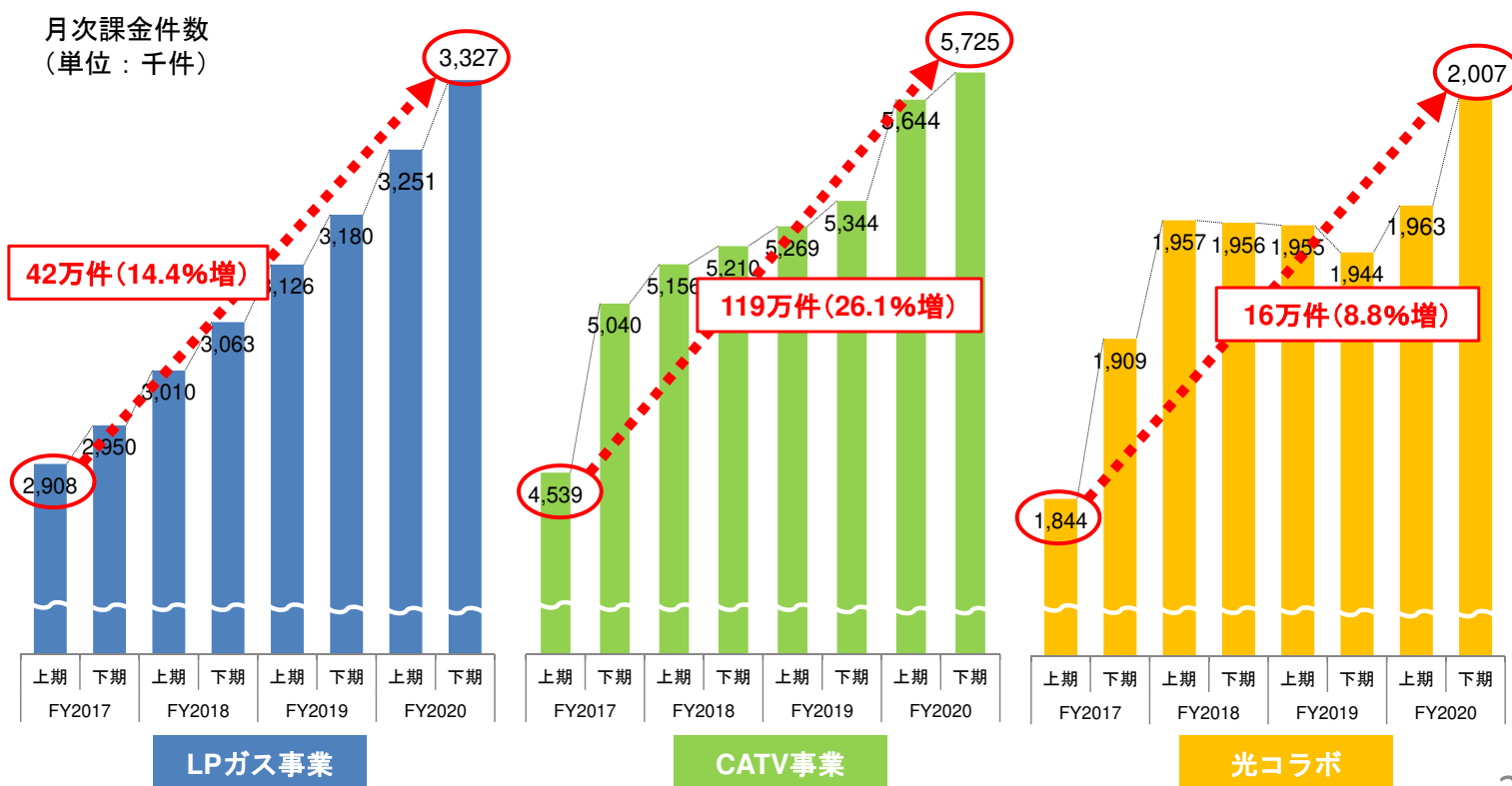
純増件数 (千件)	FY2020 (当期)	FY2019 (前期)	前期比	ポイント
ガス (LP・都市ガス) (内、既存エリア)	+31 (+19)	+24 (+8)	+8 (+11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ LPガスの既存エリアで19千件増加 ・ LPガスで新規エリアに進出した11拠点も+11千件
CATV (内、通信サービス)	+44 (+30)	+32 (+18)	+12 (+12)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信サービスが前期の1.6倍に増加
情報通信 (内、ISP)	+24 (+19)	△26 (△34)	+50 (+53)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ISPは、新規登録、中止解約ともに改善
アクア	+1	+5	△3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上期は247件の純減も、下期は1,632件の純増

※M&Aによる顧客の増加を除く。
情報通信 (ISP) には、当期よりISP付加サービスの契約を含めている。

2

主力事業の月次課金件数が大幅に増加

- ◎ 収益基盤である顧客件数を拡大していくことにより、月次課金件数増加による収益増につながっていく



3

売上高・各利益が3期連続過去最高更新

- ◎ 売上高は、ガスの仕入価格下落に伴う販売価格の低下、コロナ禍における営業活動の遅れがあったものの、顧客件数増加や法人向け情報通信事業の拡大等により増収
- ◎ 利益面は、一部の事業でコロナ影響を受けたが、顧客件数増加に伴う月次課金件数増加等による増益や法人向け情報通信事業の増益等で補い、3期連続の増益を達成
- ◎ 業績予想に対しても、各利益項目が上振れ着地

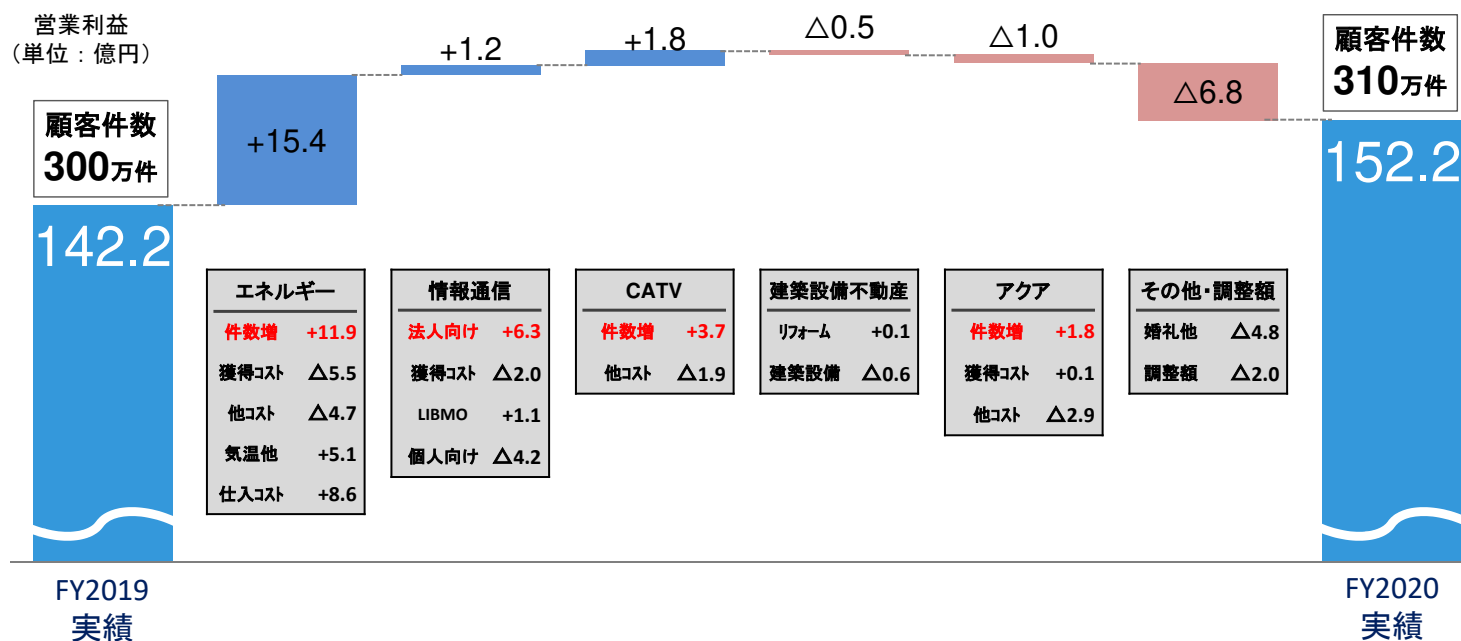
(売上高・利益:百万円、1株当たり純利益:円)

	当期実績 (FY2020)	前期 (FY2019)	業績予想	前期比		業績予想比	
				増減額	増減率 (%)	増減額	増減率 (%)
売上高	196,726	195,952	205,300	+774	+0.4	△8,573	△4.2
営業利益	15,226	14,224	15,000	+1,001	+7.0	+226	+1.5
経常利益	15,312	14,479	14,870	+833	+5.8	+442	+3.0
当期純利益	8,815	8,241	8,460	+574	+7.0	+355	+4.2
1株当たり純利益	67.32	62.93	64.60	+4.39	+7.0	+2.72	+4.2

4

営業利益 セグメント別前期比較

- ◎ エネルギー、CATV、アクアが顧客件数増加による増益を計上、法人向け情報通信も好調
- ◎ 個人向け情報通信は顧客件数減少に歯止め
- ◎ 婚礼、建築設備不動産にコロナ禍による営業活動遅れなどが影響



※営業利益の増減数値は間接費用配賦前ベース

5

自己資本強化を背景に成長投資を展開

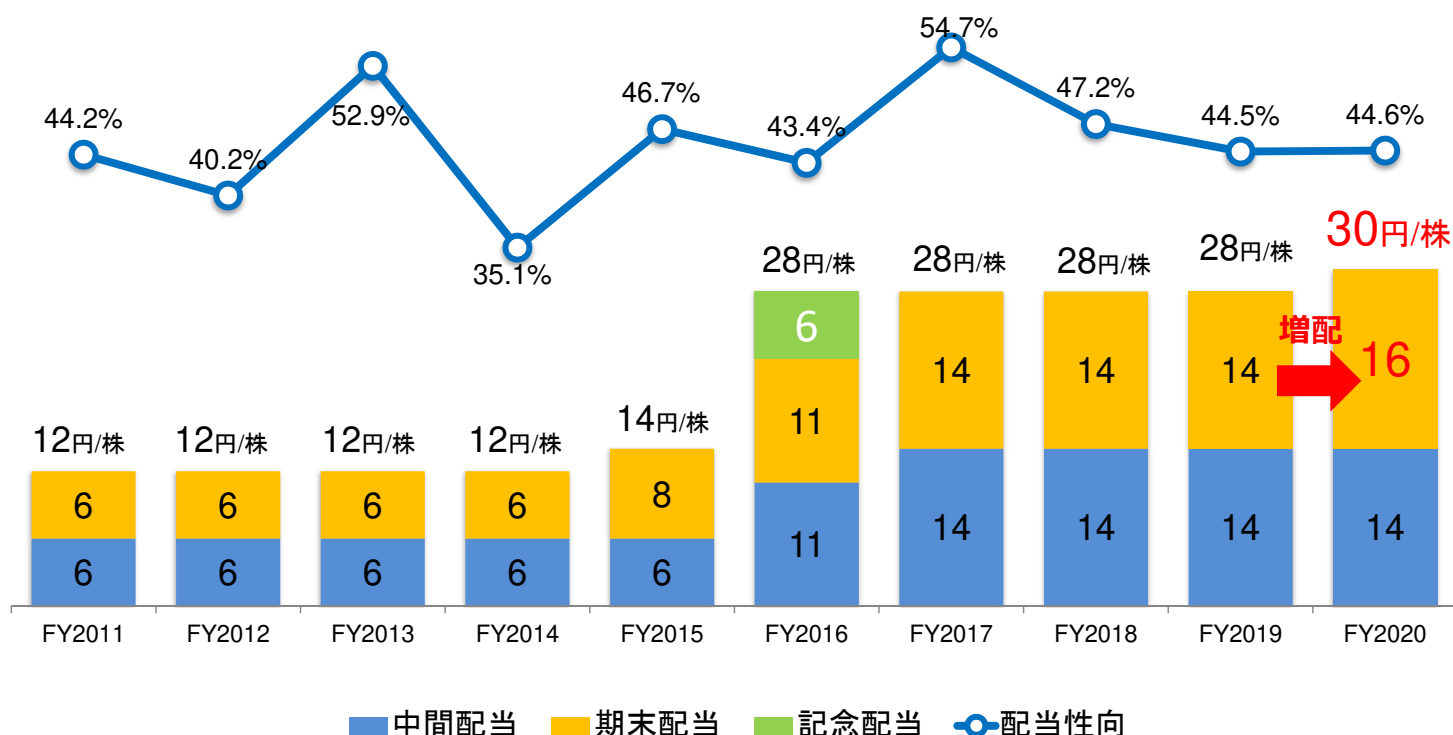
- ◎ 自己資本比率がさらに3.6ポイント向上
- ◎ 債権回収額などの運転資本の増加により営業キャッシュフローが97億円増加
- ◎ 積極的な成長投資を実施も、フリーキャッシュフローが伸長。有利子負債/EBITDA倍率も改善

自己資本比率	38.0% 2020年3月末	➡	41.6% 2021年3月末
有利子負債残高	483 億円 2020年3月末	➡	421 億円 2021年3月末
営業キャッシュフロー	225 億円 2020年3月期	➡	322 億円 2021年3月期
投資キャッシュフロー	△121 億円 2020年3月期	➡	△171 億円 2021年3月期
フリーキャッシュフロー	104 億円 2020年3月期	➡	152 億円 2021年3月期
有利子負債/EBITDA倍率	1.6 倍 2020年3月期	➡	1.4 倍 2021年3月期

6

3期連続で最高益更新、株主還元拡充

- ◎ 3期連続で最高益更新、業績予想を上振れしたことに伴い、期末配当を期初予想の14円から2円増配して16円とし、年間配当金は30円/株を予定
- ◎ 配当性向は引き続き高い水準を維持



7

Appendix

- (1)連結業績
- (2)セグメント別売上高
- (3)セグメント別営業利益
- (4)連結財務指標
- (5)連結キャッシュフロー
- (6)グループ顧客件数

(1) 連結業績

(単位:百万円)

	2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績
売上高	178,631	186,069	191,600	195,952	196,726
営業利益	12,750	10,971	13,057	14,224	15,226
経常利益	12,775	11,191	13,259	14,479	15,312
当期純利益	7,337	6,620	7,772	8,241	8,815
1株当たり純利益	64.46 円	51.19 円	59.36 円	62.93 円	67.32 円

(2) セグメント別売上高

(単位:百万円)

	2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績
エネルギー	73,344	76,073	77,977	78,154	77,380
情報通信	49,508	50,894	51,234	51,753	50,735
CATV	25,396	28,386	30,511	31,385	33,745
建築設備不動産	19,511	19,807	20,090	22,383	23,177
アクア	5,762	6,200	7,004	7,416	7,622
その他	5,108	4,706	4,781	4,858	4,065
合計	178,631	186,069	191,600	195,952	196,726

※当期より、報告セグメントの名称を「ガス及び石油」から「エネルギー」、「建築及び不動産」から「建築設備不動産」、「情報及び通信サービス」から「情報通信」に変更しています。
セグメント名称変更によるセグメント別売上高に与える影響はありません。

10

(3) セグメント別営業利益

(単位:百万円)

	2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績
エネルギー	9,161	7,364	6,815	7,452	8,988
情報通信	4,213	3,174	3,827	4,226	4,344
CATV	2,752	3,554	4,953	5,024	5,205
建築設備不動産	1,098	1,330	1,615	2,116	2,065
アクア	298	246	762	674	573
その他・調整額	△4,775	△4,699	△4,916	△5,271	△5,949
合計	12,750	10,971	13,057	14,224	15,226

※数値は間接費用等配賦前ベース

※当期より、報告セグメントの名称を「ガス及び石油」から「エネルギー」、「建築及び不動産」から「建築設備不動産」、「情報及び通信サービス」から「情報通信」に変更しています。
セグメント名称変更によるセグメント別営業利益に与える影響はありません。

11

(4) 連結財務指標

(単位:百万円)

	2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績
資産合計	161,112	165,993	167,606	169,972	178,974
負債合計	104,665	104,543	103,711	103,989	102,917
純資産合計	56,446	61,450	63,894	65,982	76,056
有利子負債残高	54,137	50,980	50,604	48,273	42,128
E B I T D A	28,392	26,318	28,148	29,651	31,027
自己資本比率	34.5 %	36.3 %	37.4 %	38.0 %	41.6 %

12

(5) 連結キャッシュフロー

(単位:百万円)

	2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績
営業活動による キャッシュフロー	26,692	20,909	21,605	22,535	32,223
投資活動による キャッシュフロー	△10,985	△11,488	△12,443	△12,131	△17,068
フリー キャッシュフロー	15,706	9,421	9,161	10,403	15,155
財務活動による キャッシュフロー	△16,643	△9,527	△8,147	△10,375	△14,064

13

(6) グループ顧客件数

(単位:千件)

		2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績
ガス(LP・都市ガス)		642	661	684	713	744
情報 通信	従来型ISP等	527	465	419	389	395
	光コラボ	299	323	327	324	337
	LIBMO	2	29	41	48	53
	小計	828	817	787	761	785
CATV		733	1,032	1,063	1,154	1,198
アクア		135	146	156	161	162
モバイル		233	227	217	212	206
セキュリティ		17	17	17	16	16
合計		2,564	2,876	2,902	3,003	3,099

※千件未満四捨五入。情報通信とCATVで通信サービスが重複、合計値からは除外。

※情報通信(従来型ISP等)には、当期よりISP付加サービスの契約を含めている。

14

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

本資料に関するお問い合わせは下記までお願い致します。

株式会社TOKAIホールディングス IR室

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目9番1号 浜離宮インターシティ

TEL: (03)5404-2891

FAX: (03)5404-2786

<https://www.tokaiholdings.co.jp>

e-mail: hd-info@tokaigroup.co.jp

うれしいをつなぐ。ひろげる。

